

第八拾八号

第3回有田雛（ひいな）のやきものまつり 開催

第3回有田ひいなのやきものまつりが2月4日（日）より3月11日（日）まで有田皿山内山通りの有田館を中心にして行われます。しん窯総力をあげて制作した5段飾りが展示されます。昨年両町合併で有田町（ありたちょう）が誕生しましたが、岩永初代町長さんが有田産業観光元年を打ち出し有田焼の魅力を掘り起こして人が訪れる町づくりを目指しておられます。私達も毎日100人訪れるしん窯を目指して集客のための仕掛けを模索しているところです。

ちなみに世界初大型磁器製ひな人形のコンセプトは以下の通りです。

世界初の大型磁器製ひな人形は、温故創新の心意気で現代の陶工たちが先達をお手本にして「後世にのこる作品」に挑戦したものである。

メインの内裏様、お雛様はそれぞれ巾約45cm、高さ約45cm程の大きさで、佐賀県窯業技術センター川久保正行先生が原型を着手。しん窯では上絵付部門伝統工芸士の角康則を中心に、職人さん達総力をあげて取り組んだ。明治時代の万国博出展をめざして藩の威信をかけて作った当時の大皿の染付や染錦の雄壮で気品あるデザインに魅せられ、しん窯草創期の作品に倣った。

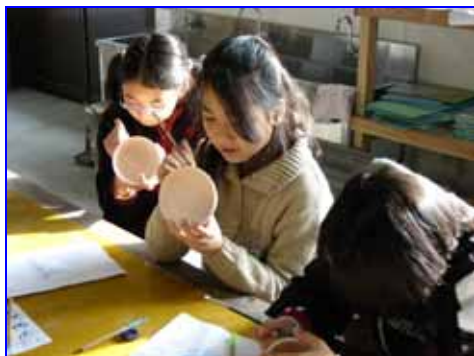
有田焼業界の一本化

伝統産業といわれている有田焼業界も苦戦中です。約20年前、「肥前はひとつ」をスローガンに若い窯元・商社の後継者達が同じテーブルで将来の展望を熱く語り合っていました。今は自社の事を考えるだけで心に余裕がなくなり、窯の炎も消えようとしています。本来は地域の振興や発展があってそれぞれの窯が輝いてくるのですが…。最大のピンチは最大のチャンスととらえ、業界の一本化を見守りたいと思います。

絵付け体験学習

1月18日(木) 有田中部小学校4年生の授業でやきものの絵付け体験学習が行われました。絵付けの下平チームリーダーが指導員として出向き、生徒の皆さんとやきものを通して楽しい時間を過ごさせていただきました。

皆さん楽しいながらも真剣に丁寧に取り組まれたようで、なかなかの力作ぞろいです。



橋口博之作陶展に向けて

橋口博之作陶展 3月13日(火)~19日(月)
in 三越日本橋本店も今年で5回目を迎えます。

回を重ねる度にお客さまが増えてきました。三越百貨店さんも毎年この週を空けて下さり、私達を温かく迎えて下さいます。一日も早くインショップとして定着できますように今年も新作に挑んでいます。



職人さんのひとりごと - 鋳込み職人

~ 第4回・飯野政行さん ~

鋳込み歴24年、入社以来生地を作っています。やはり生地作りは大事で、何人もの手間がかかって最後は窯できれいに出来ているかが気になります。やきもの作りは奥が深いと思いました。

また、手話歴10年目になり、最近は講師や通訳の担当もしています。手話は難しいけれど、皆さんの協力のおかげで頑張っています。上達はまだまだ、これからも続けたいです。そして、仕事休みなど暇な時は、魚釣りやイカ釣りをして楽しんでいます。皆さんも何か始めてみてはいかがでしょうか？

